

June.12 1978 Fox Theatre, Atlanta, GA



『Let It Fox』 (RISK DISC 013) 1CD

Mono Audience Recording : Quality : Good

1.Let It Rock/ 2.All Down The Line/ 3.Honky Tonk Women/ 4.Star Star/ 5.Lies/
6.Miss You/7.When The Whip Comes Down/ 8.Beast Of Burden/
9.Just My Imagination/10.Respectable/ 11.Far Away Eyes/
12.Love In Vain/ 13.Shattered/ 14.Tumbling Dice/ 15.Happy/
16.Brown Sugar/ 17.Jumping Jack Flash

この公演を取録しているのは本作のみ。曲間カットはあるものの、一応曲中カット無しの全曲収録。音の方は、1曲目の"Let It Rock"でいきなりテープ劣化の激しい音ムラ。その後もコモリ気味ながら、耳さえ慣れればそれなりに聴ける程度の音が続きますが、"Just My Imagination"から"Happy"まではコモリがひどくなり、まるで扉の向こうで聴いている様な音に(笑)。このCD、ジャケットは上質の紙で作られた特殊仕様と、装丁だけはいいんですが肝心の音はマニア向け。

June.14 1978 Capitol Theatre, Passaic, NJ



『Out On Bail』 (VGP-278)

Stereo Soundboard Recording Quality : Excellent

●Disc-1 1.Let It Rock/ 2.All Down The Line/ 3.Honky Tonk Women/ 4.Star Star/
5.When The Whip Comes Down/ 6.Miss You/ 7.Just My Imagination/ 8.Lies/
9.Beast Of Burden/ 10.Respectable/ 11.Far Away Eyes/ 12.Love In Vain/ 13.Shattered
●Disc-2 1.Sweet Little Sixteen/ 2.Tumbling Dice/ 3.Happy/ 4.Brown Sugar/
5.Jumping Jack Flash/ 6.Street Fighting Man

本作に収録されているのはアナログ時代から有名なミキサー卓直結の流出SBD音源。この音源は、曲中でステレオになったりモノラルになったりという不安定なミックスの上、片方のチャンネルが数ヶ所ドロップアウトしたり、この手の音源の特徴である臨場感の無さではありますが、ラフなパランスのミックスとやや歪み気味の音質も相まって全体的に迫力のあるものとなっています。アンコー
ルの"SFM"は途中までの収録。まず本作以外の収録盤について触れますと、アナログ時代は有名音源だけあって、かなりの数のタイトルが出ていますが、全曲収録の[Garden State 78]や、このライブをLP1枚+EP1枚にダイジェスト収録したLP [Out On Bail] (これをLP1枚に収録したコピー盤もあり) 迎りが音質面等で代表盤。なお、前述した途中までの"SFM"ですが、アナログ [In Again Out Again] (Oakland Rec.1909) では、途中からAUD音源を繋げて完全版としています。ただし、LP1枚物につき本編がダイジェスト収録。CDでは [Capital Connection] (RS 780114)、[Out On Bail] (TSP-CD-0642)、[Garden State 78] (VGP-253) の3タイトルが代表盤ですが、それぞれに何かしらの問題があります。まず [Capital-]、音質はヒスノイズが多くチャンネルも逆ですが、変にイコライジングされていないナチュラルな音で聞き易く、本作以外のタイトルの中では一番音が良いのですが、残念ながら"SFM"が未収録。TSP盤は、このメーカー特有のヒスノイズ除去による弊害で、音の余韻が不自然になっているのとイコライジングにより高域がかなりキツくなっています。"SFM"はAUD音源を繋いだ疑似完全版ですが、この盤も左右のチャンネルが逆。VGP[Garden State 78]は、元テープのジェネレーションが高い上、メリハリつけたイコライジングのおかげで高域がかなりキツ目。こちらの"SFM"もAUD音源を繋いだ疑似完全版。さて本作、ジャケットにTSPと同じ写真 (TSPは写真が反転) を使っているのが、紛らわしかったりするのですが、音質は、高域の伸びをアナログと同程度に抑えアナログもともと強め)、低域もイコライジングにより厚みが増しており、アナログ [Garden State 78] 以外は、何かしら問題のあったこの音源を取録したタイトルの決定版的なものになっています。さらにこの音源の欠点であった前述のドロップアウトも、その箇所をモノラル処理にすることによって、見事に解消。そして"SFM"、本作も途中からAUD音源に切り替わりますが、他のAUD音源に切り替わるタイトルは全て、3コーラス目の頭から切り替わるのに対し、本作は元々3コーラス目が終わってから十数秒近くまであるSBD音源をいっぱい使用して、SBD音源が終わる寸前の部分でAUD音源に切り替えるという素材を最大限に生かした編集を施しています。

June.15 1978 Warner Theatre, Washington DC



『Far Away Washington』 (VGP-081) 2CD

Mono Audience Recording : Quality : Very Good

●Disc-1
1.Let It Rock/ 2.All Down The Line/ 3.Honky Tonk Women/ 4.Star Star/
5.When The Whip Comes Down/ 6.Just My Imagination/ 7.Miss You/
8.Respectable/9.Far Away Eyes
●Disc-2
1.Love In Vain/ 2.Shattered/ 3.Sweet Little Sixteen/ 4.Tumbling Dice/
5.Happy/ 6.Brown Sugar/ 7.Jumping Jack Flash

シアター公演3連発の3発目。この公演では本編ラストと思われる"JJF"の終盤で停電が発生。演奏がストップするというハプニングが起っています。収録ブートは本作のみ。曲中カットなしの全曲収録なんです。前述の"JJF"の演奏停止後、観客が再開を願って手拍子しているところで、ディスクが終わってしまうので、ライブが停電時点で終わってしまったかの確認は出来ず(まあ、そのまま終わったと考えるのが妥当でしょうけど)。さて、音の方ですが、演奏が大きく録れており、会場全体が盛り上がりつつもしっかりと収録されている良好録音。ただし、中域強めな音のせいか、CDを止めた途端に訪れる静寂にほっとしてしまう音質(笑)。ちなみにトータルタイムは76分30秒。出来ればコンパクトに1枚に収めてもらいたかったと感じるタイトル。

June.17 1978 John F.Kennedy Stadium, Philadelphia, PA



『JFK Stadium 78』 (VGP-336) 2CD

Stereo Audience Recording Quality : Very Good

●Disc-1 1.Let It Rock/ 2.All Down The Line/ 3.Honky Tonk Women/ 4.Star Star/
5.When The Whip Comes Down/ 6.Miss You/ 7.Just My Imagination/
8.Respectable/ 9.Beast Of Burden
●Disc-2 1.Far Away Eyes/ 2.Love In Vain/ 3.Shattered/ 4.Satisfaction/
5.Sweet Little Sixteen/ 6.Tumbling Dice/ 7.Happy/ 8.Brown Sugar/
9.Jumping Jack Flash

78年ツアーでは、結局"Satisfaction"を都合3回しか演奏しませんでした。その内の1回がこの日。この年の"Satisfaction"は、リフを短音ではなく複音で弾き、ヴォーカルもツアーの性格に合わせてラフでパンキッシュな歌い方をしています。中でもこの日は、他の2つに比べてラフさに拍車がかかったような出来で、本作以外にも6月14日のニュージャージー公演のダイジェスト版であるアナログ [Out On Bail] にボーナス収録される等、広く知られる演奏でありました。さて、そんな"Satisfaction"を演奏したJFKスタジアム公演を全曲収録した本作、写真が反転したままのジャケット含めて同名のアナログ [JFK Stadium 78] (Phoenix 44771) の複製となっていますが、音の方も基本はアナログ落とし。したがってアナログの面変わりにあたる部分ではヒスノイズが若干多くなっています。ただ、本作は純粋なアナログ落としではなく、"Respectable"終了後のトラック8の3分19秒からトラック8終わりまでは別音源が繋がっています。この部分、アナログでは録音者のカセット入れ替えの音ユレ等が確認できますが、本作にはありません。更にアナログにはなかったMCが本作には収録されています。ではこのタイトル、何故アナログ落としをメインとして、この別音源の使用を最小にしたのかというと、トラック8の3分39秒で聞こえるMCが終わった後のポロンというギターの音がポイント。これは本作・アナログ共に収録されていますが、アナログでは演奏同様の音量ではっきりと聞こえるのに対し、この別音源は女性の悲鳴の影でかすかに聞こえる程度。ここから推測できるのは、この別音源はヴォーカルこそは大きく録れているもののギターが遠かったのか、悲鳴がすさまじすぎて開けたものではない、のどちらかと推測でき、この音源よりは古くからのアナログ音源の方が、状態も良く聞きやすいので、採用したということになるでしょう。ちなみに音質の方ですが、メインの音源は当日の風の影響で、音が近くなったり、若干遠くなったりしている為、音質も変わっていますが、本作は音が遠くなった部分を綺麗に聞こせようとするあまり高域を持ち上げているので、音が近い部分になると若干高域がキツ目に感じてしまいます。